

ヲ維持シ且ツ同時ニ「ソ」聯邦トモ良好ナル關係ヲ繼續スルカ如キ政  
策ヲ執リ得ヘキコトヲ衷心ヨリ希冀スルモノナリ  
申ス迄モナキコトナカラ「スターリン」及「モロト乙」両閣下カ本大臣  
ニ於テ右ノ方針ニヨリ最善ヲ尽スヘキコト信賴セラレテ可ナリ  
然レトモ日本政府力彼上ノ政策ヲ矛盾ナシニ遵守シ得ルヤ否ヤハ主ト  
シテ將來ニ於ケル事態ノ發展ニ係ルモノナルコトヲ敢テ附言スルノ必  
要ナカルヘシ

情勢ノ推移ニ伴フ帝國國策要綱

昭和十六年七月二日  
御前會議決定

第一、方針

- 一、帝國ハ世界情勢變転ノ如何ニ拘ラズ大東亞共榮圈ヲ建設シ以テ世界  
平和ノ確立ニ寄与セントスル方針ヲ堅持ス
- 二、帝國ハ依然支那事變處理ニ邁進シ且自存自衛ノ基礎ヲ確立スル為南  
方進出ノ歩ヲ進メ又情勢ノ推移ニ応シ北方問題ヲ解決ス
- 三、帝國ハ右目的達成ノ為如何ナル障害ヲモ之ヲ排除ス

第二、要領

- 一、蔣政權屈服促進ノ為更ニ南方諸域ヨリノ圧力ヲ強化ス  
情勢ノ推移ニ応シ適時重慶政權ニ対スル交戦備ヲ行使シ且支那ニ於  
ケル敵性租界ヲ接收ス
- 二、帝國ハ其ノ自存自衛上南方要域ニ対スル必要ナル外交交渉ヲ統行シ  
其ノ他各説ノ施策ヲ促進ス  
之カ為對英米或準備ヲ並ヘ先ツ「對佛印泰施策要綱」及「南方施策

促進ニ関スル件」ニ拠リ佛印及泰ニ対スル諸方策ヲ完遂シ以テ兩方進出ノ願望ヲ強化ス

帝國ハ本号目ノ達成ノ爲対英米戦ヲ辞セス

三、独「ソ」戦ニ対シテハ三国樞軸ノ精神ヲ基調トスルモ暫ク之ニ介入スルコトナク帝カニ対「ソ」武力ノ準備ヲ整ヘ自主的ニ対処ス此ノ間固ヨリ制密ナル用意ヲ以テ外交交渉ヲ行フ

独「ソ」戦争ノ推移帝國ノ爲有利ニ進展セハ武力ヲ行使シテ北方問題ヲ解決シ北辺ノ安定ヲ確保ス

四、前号遂行ニ方リ各種ノ施策就中武力行使ノ決定ニ際シテハ対英米戦争ノ基本態勢ノ保持ニ大ナル支障ナカラシム

五、米國ノ参戦ハ既定方針ニ從ヒ外交手段其ノ他有ユル方法ニ依リ極力之ヲ防止スヘキモ万一米國力参戦シタル場合ニハ帝國ハ三国衆約ニ基キ行動ス但シ武力行使ノ時機及方法ハ自主的ニ之ヲ定ム

六、運力ニ國內戰時体制ノ徹底ノ強化ニ移行ス特ニ國土防衛ノ強化ニ勉ム

支那本部の管理ニ関シテハ別ニ之ヲ定ム

対「ソ」戦争ニ伴フ滿洲國收費要領  
昭和十六年七月十九日  
省 議 決 定

一、日、滿兩國ハ日、滿議定書才二条ノ趣旨ニ基キ共同シテ対「ソ」戦争ヲ遂行スルノ形式ヲ取ルモノトス

二、前項ニ拘ラス本庄、傳信交換秘密覚書ノ趣旨ニ拠リ対「ソ」開戦並其戦争指導等ハ帝國独自ノ見地ニ於テ決定シ滿洲國ヲシテ之ニ協力セシムル如ク内面指導スルモノトス

三、日、滿守勢軍事協定ニ拠リ滿洲國軍ハ日本軍指揮官ノ統一指揮下ニ入り聯合作戰ノ形式ハ取ラサルモノトス

四、帝國軍ノ軍事行動ニ伴フ軍事關係法規ノ適用ニ關シテハ昭和十二年十一月三十日附「滿洲ニ駐屯スル日本國軍ノ軍事關係法規適用ニ關スル交換公文」ニ拠リ措置セシム

五、滿洲國ハ本庄、傳信交換秘密覚書一ニ基キ所要経費ヲ負担スルモノトス而シテ滿洲國ニ対シ過重ノ負担ヲ課シ爲ニ日本帝國ニ於テ之カ補償ヲ要スルカ如キコトナキ警戒メサルヘカラス